

# モンゴル語の否定呼応項目の 意味的分類\*

橋本 邦彦<sup>†</sup>

キーワード： 否定演算子、否定呼応項目、作用域、意味ネットワーク

## 1 はじめに

文の極性には肯定と否定があり、文中の語や句の分布を左右する場合がある。肯定であれ否定であれ、極性の影響を被る語や句などの構成要素は極性項目(Polarity Item)と呼ばれる。否定極性項目(Negative Polarity Item, NPI と略)は否定極性の影響を受けるものであるが、次のように定義される。

- (1) 否定極性項目の定義：否定的な作用域においてのみ現れることが許されるような語、句、慣用表現などの構成要素。(Linebarger 1987, 吉村 1999, Hoeksema 2000)

否定極性項目の出現は否定演算子(Negative Operator, NO と略)によって認可される。たとえば、英語の否定演算子には、次のようなものがある。

- (2) 英語の否定演算子：
  - a. 否定辞: not, no, never, etc.

---

\*本論文は、2008年8月30日～31日内蒙古師範大学で開催された全国第二届蒙古語応用研究学術検討会での研究発表「モンゴル語（ハルハ方言）の否定極性項目の意味的分類」に基づいて執筆されたものである。貴重な助言をして下さった参加者の皆様に感謝申し上げたい。

<sup>†</sup>室蘭工業大学共通講座・言語科学講座

- b. 否定含意語: deny, forget, fail to, lack, prevent, without, only, rarely, seldom, too~to, difficult, unlikely, etc.
- c. 反意述語: sorry, surprised, disappointed, odd, strange, etc.
- d. 否定志向節: conditional, concessive, comparative, rhetorical question, before-clause, etc.

これらの否定演算子の作用域内に、(3)のような否定極性項目が現れる。

(3) 英語の否定極性項目 :

- a. 語: any, anyone, anything, anywhere, yet, far, either, ever, mind, etc.
- b. 句: at all, bother+V-ing, lift a finger, bat an eyelash, so much as, etc.

英語の文から否定演算子と否定極性項目の分布を見ると、(4a, b)のようになる。

(4) a. I haven't seen any of his films.

NO            NPI

b. He never lifts a finger when it comes to cooking and washing up.

NO    NPI

モンゴル語にも否定演算子と否定極性項目は存在する。ただし、後者の多くは、否定文だけではなく、意味・機能を変えて肯定文にも出現可能なので、(1)の定義ではきつすぎるように思われる。そこで、本研究では独自に、否定演算子と呼応する形で否定文脈に現れる事実を踏まえて、「否定極性項目」の代わりに「否定呼応項目(Negative Concord Item, NCI と略)」という用語を用いることにする。

(5) モンゴル語の否定演算子 :

- a. 否定辞語: -güj/ügüj, biš, alga, bus, ül, es, büü, bitgij, etc.
- b. 否定含意語: mart- “to forget,” buu “bad(ly),” бага “a little,” etc.
- c. 否定志向節: conditional, concessive, rhetorical question, etc.

## (6) モンゴル語の否定呼応項目 :

č, l, neg, araj, yör, бүр, daanč, daxjaad, zügeer, nevt, ogt, odoo, tag, tun, xagas, xaraaxan, xerxevč, yag, yum, sanasandaa хүртел, etc.

本研究では、1)モンゴル語の否定呼応項目の意味タイプを分類することと、2)分類された意味タイプが概念化の観点からどのように関連し合っているのかを解明することを目的とする。第2節では否定の作用域と NCI の関係を考察する。第3節では6つの意味タイプに NCI を分類し、それぞれの特徴を明らかにしていく。第4節では6つの意味タイプを2つの系列にまとめた上で、一定の概念操作によって結び付いたネットワークを形成する事実を提示する。

## 2 否定の作用域と否定呼応項目 (NCI)

否定の作用域は、否定演算子が文末の構成要素に付加するとき、文全体に及ぶ。したがって、その作用域内にある NCI も文全体の意味に関係する。

- (7) a. Bi      tüünij    tuxaj    yamar č      xarjuulagaa-g      xülee-n  
 1SG:N 3SG:G    about    what FOC responsibility-ACC accept-ASS  
 av-č      čad-a-x-güj.  
 take-ICC    can-EP-NPS-NO<sup>1</sup>  
 “I cannot assume any responsibility for that.” <A.E.>
- b. NO:-güj [NCI: yamar č<sub>α</sub> [Bi tüünij tuxaj φ<sub>α</sub> xarjuulagaa-g xülee-n  
 av-č čad-a-x-]]<sup>2</sup>

<sup>1</sup>グロスの省略記号及び引用文献の対応は論文末を参照のこと。訳文は英語訳としたが、G&B、K&Ts、HA 以外はすべて筆者による。

<sup>2</sup>[ ]はNO、NCIの意味の作用域を表す。最も左側にあるものが最も広い作用域を持つので、NO はその作用域内に NCI を含んでいることが示されている。φ は意味構造で移動した NCI の痕跡を表し、α という同一指示指標が付されている。

(7a)では疑問詞 *yamar* が焦点化詞 *č* の後接によって否定の作用域内で NCI として機能している。否定演算子-*güj* の作用域は(7b)に見るように、文全体である。

文末の否定演算子の作用域が節境界を越えて働く例が観察される。

- (8) a. *Bi yaa-ž č orold-ood üünijg orčuul-ž*  
 1SG:N do what-ICC FOC try-PCC this:ACC translate-ICC  
*čad-san-güj.*  
 can-PF-NO  
 “However I tried to do (it), I couldn’t translate this.” <K&Ts: 281>  
 b. NO:-*güj* [NCI: *yaa-ž č<sub>α</sub>* [[*Bi φ<sub>α</sub>* *orold-ood*] [*üünijg orčuul-ž čad-san-*]]]

(8a)は完了形副動詞接尾辞によって結合した等位文であるが、(8b)に見るように、前半節の疑問動詞と *č* は意味的に後半節をも含み込む形で否定演算子と呼応している。

否定演算子の作用域が文の局所的な部分にのみ及ぶ場合もある。

- (9) a. *Ene bol xaanaas č oldošgij čuxal erdene.<sup>3</sup>*  
 this:N TOP where from FOC unobtainable valuable jewel:0  
 “This is a valuable jewel (you) cannot obtain anywhere.” <L: 207>  
 b. [*Ene bol* [NO:-*güj* [NCI: *xaanaas č* [*oldš-*]]] *čuxal erdene*]

(9a)は述語名詞句の修飾形容詞に NCI と否定演算子のある文である。(9b)で示すように、否定の作用域は疑問詞 *xaanaas* から否定演算子を含む形容詞 *oldošgij* に限定され、その前後の構成要素には及ばない。

以上のことから、否定演算子の作用域に関して、次のような原則を立てることができる。

#### (10) 否定演算子の作用域の原則 (The Principle of Scopes of Negative

<sup>3</sup>モンゴル語のコピュラ文の構造については、橋本(2004)を参照のこと。

Operators) :

- a. 広い作用域 (Wide Scope) : 否定演算子が文末にある場合、否定の作用域は、節境界の有無に関わりなく、文全体に及ぶ。
- b. 狭い作用域 (Narrow Scope) : 否定演算子が文末以外の位置にある場合、否定の作用域は、その演算子を含む句や節に限定される。

否定演算子の作用域と NCI の相関関係は、次のように規定される。

- (11) 否定演算子と否定呼応項目の相関の原則 (The Principle of the Correlation between Negative Operators and Negative Concord Items) :
- 否定呼応項目(NCI)の意味効果はそれを含む否定演算子(NO)の作用域全体に影響を及ぼす。

### 3 意味タイプに基づく否定呼応項目(NCI)の分類

モンゴル語の NCI は、6 つの意味タイプを持つと考えられる：段階否定 (Scale Negation); 付加否定 (Addition Negation); 集合メンバー否定 (Set Member Negation); 存在否定 (Existence Negation); 目標達成否定 (Goal Attainment Negation); 部分否定 (Partial Negation)。

#### 3.1 段階否定 (Scale Negation)

(12)は、各々段階的に順序づけられている項目の集合である。

(12) Set of Gradual Items =  $\{I_1 < I_2 < I_3 < \dots < I_n\}$

(12)の集合では、最左端の項目  $I_1$  が段階的に最も低い位置の項目である。その項目を否定することは、(13)に見るように、それより上位の項目すべての否定を含意することになる。

(13) NOT ( $I_1$ )  $\Rightarrow$  NOT ( $I_2 < I_3 < \dots < I_n$ )      #  $\Rightarrow$ : IMPLICATE

段階否定の文の多くには焦点化詞後接語とが含まれている。これは、(14)のように、肯定文では、先行する語の意味を際立たせる働きをする。<sup>4</sup>

- (14) Bi           č           med-ne.  
 1SG:N   FOC know-PRS  
 “Even I know (it).” <A.E.>

焦点化詞は否定文で用いられると、典型的に段階否定を表す NCI としての機能を発揮する。

- (15) a. ... us-iyg       ilüü   oncl-o-n           gol   gorxi,       bulag  
           water-ACC better single out-EP-ASS river:0 small river:0 fountain:0  
           šand-niy       ex       orčn-iyg           darxl-a-n       oj mod,  
           small fountain:0 original surroundings-ACC protect-EP-ASS trees:0  
           ceceg,   nogoo, samar, žims-ijg   č   xönd-ö-x-güj, ...  
           flower:0 grass:0 nuts:0   berry-ACC FOC touch upon-EP-NPS-NO  
           “... (we) protect source surroundings of rivers and fountains which  
           single out better water, without touching upon trees, flowers, blades of  
           grass, nuts and even berries ...” <Ünen: 1989.4.15.>  
           b. NOT (berries) ⇒ NOT (nuts < grass < flowers < trees)

(15a)は、水の源の環境にあるものの項目として木、花、草、木の実、果実の順に列挙した上で、最低段階の項目である果実に焦点を当て取り立てて否定することで、それより上位の項目すべてを否定している。

最低段階の項目のみが挙げられ、上位項目は明示されないで含意される場合もある。

- (16) a. Negen udaa   Ünegxen   xüü   <<Surgulj-d-aa   oč-i-x-oo  
           one+   times Ünegxen:N little~   school-D/L-REF go-EP-NPS-REF

<sup>4</sup>沼田(2000)は日本語の「も、さえ、だけ」などの構成要素をとりたての機能を果たすことから「とりたて詞」と呼んでいる。これは機能上焦点化詞と同じと考えてよい。

bay-ya>> gež šijd-eed orn-oos-oo öndij-sön ċ ügij.  
 be-VLNT QUT decide-PCC bed-ABL-REF raise oneself-PF FOC NO  
 “Little Ünegxen decided this once: <<I’ll go to school.>> (But) (he)  
 even didn’t raise himself from his bed.”

b. NOT (Raise Himself)  $\ni$  NOT (Exchange Clothes < Wash Face < …  
 < Walk to School)

(16a)では、焦点化詞 $\checkmark$ は動詞句 orn-oos-oo の表す行為を取り立てている。「起き上がる」という学校へ行くための最低限の行為を否定することで、起床後の一連の行為として常識の枠内でそれより上位に挙がることの予想されるすべての行為は否定される。

### 3.2 付加否定 (Addition Negation)

付加否定は等位型(Coordinative Type)と下方型(Downward Type)に下位区分でき、各々、焦点化詞後接語 $\checkmark$ が関与している。

#### 3.2.1 等位型付加否定 (Coordinative Addition Negation)

この基本形は、(17)である。

(17)  $_{\text{CLAUSE1}}[\text{NP/VP}+\checkmark \dots\text{NO}] \ \& \ _{\text{CLAUSE2}}[\text{NP/VP}+\checkmark \dots\text{NO}]$

(18) a. Boroo ċ or-oo-güj, salxi ċ salxil-aa-güj.  
 rain:N FOC fall-IMPf-NO wind:N FOC blow-IMPf-NO  
 “It doesn’t rain, and the wind doesn’t blow, either.” <A.E.>  
 b. NOT[[Boroo or-oo-] & [Salxi salxil-aa-]]

(19) a. Üdešleg-t oč-ood bi düül-ž ċ čad-a-x-güj,  
 party-D/L go-PCC 1SG:N sing-ICC FOC can-EP-NPS-NO  
 büžigl-e-ž ċ čad-a-x-güj šüü dee!  
 dance-EP-ICC FOC can-EP-NPS-NO CNF CNF  
 “You know, though I go to a party, I can neither sing nor dance (there).”

&lt;L: 146&gt;

b. NOT ([Bi düül-ž čad-a-x-] &amp; [Bi büžigl-e-ž čad-a-x-])

(18a)では主語名詞に焦点化詞が後続しており、「雨が降る」と「風が吹く」とが等しく否定されている。(19a)では動詞句に焦点化詞が後続しており、「歌う」と「踊る」が等しく否定されている。どちらも否定演算子は文末に1つあるだけであるが、その作用域は節ごとに及ぶことがわかる。

### 3.2.2 下方型付加否定 (Downward Addition Negation)

これは上位の項目を否定するのに加えて、それより下方の項目をも否定する慣用表現で、(20)のような形式をとる。

(20) [NP+bajtugaj, NP+č] + NO

(21) Mōngö *bajtugaj*, cag č ügüj.  
money:N let alone time:N FOC NO

“No to mention money, simply there is even no time.” <HA: 123>

(22) Caj *bajtugaj*, us č ol-son-güj.  
tea:0 let alone water:0 FOC find-PF-NO

“I didn’t find any water, let alone tea.” <HA: 119>

(21)は「お金がないのは仕方がないとしても、誰にでも当然あるはずの時間すらない」ことを表す。焦点化詞で取り立てられている「時間(cag)」は「お金(mōngö)」より下位の項目である。同様に、(22)も「飲み物としてお茶がないのは仕方がないとして、用意するのが容易であるはずの水すらない」ことを述べている。「お茶(caj)」を否定するのに加えて、それより下位の項目の「水(us)」をも否定しているわけである。(21)と(22)の意味表示を図示すると、次のようになるだろう。

(23) NOT (I<sub>n</sub>) & ↓ NOT (I<sub>n-1</sub>)      & ↓: downward added to

### 3.3 集合メンバー否定 (Set Member Negation)

このタイプの否定は、1 つのメンバーを除くすべてのメンバーの否定とすべてのメンバーの否定の 2 つの下位タイプがある。

#### 3.3.1 1 つのメンバーを除くすべてのメンバー否定 (Negation of All the Members Except One)

集合の 1 つのメンバーを除いて、それ以外のすべてのメンバーを否定する場合の意味表示は、(24) のようになる。

(24) In the Set of A, NOT (All the Members Except One Member DO/ HAVE/ BE SOMETHING)

(25) a. Dulmaa-g 1 baj-x yostoj. Manaj angi-ijn-x-a-n-d  
 Dulmaa-ACC only be-NPS should 1PL:G class-G-POS-EP-n-D/L  
 öör xen-d ě baj-x-güj.  
 other who-D/L FOC be-NPS-NO  
 “Only Dulmaa should have (it). Nobody other than (her) has (it) in my class.” <L: 154>

b. In the set of my class, NOT (All the classmates except Dulmaa have it)

(25a) では、「私のクラス」という集合の中で、「ドルマー」を除くすべてのメンバーの所有の事実が否定されている。

#### 3.3.2 すべてのメンバー否定 (Negation of All the Members)

このタイプの否定の意味表示は、(26) のようになる。

(26) In the Set of A, NOT (All the Members DO/ HAVE/ BE SOMETHING)

2 つのメンバーだけからなる集合で、2 つとも否定される場合がある。

(27) a. Nadad ene xoyor nom-iyin al' n' ě baj-x-güj.  
 1SG:D/L this+ two book-G which 3PROG FOC be-NPS-NO

“I don’t have either of these two books.” <G&B: 86>

b. In the set of two books, NOT (All the members I have)

(27a)では、「2冊の本」からなる集合のどのメンバーも所有していないことを述べている。

より一般的なものは、具体的な数に限定されない集合の全否定である。

(28) a. Bi ene caas-n-aas xed-ijg ě av-aa-gij.

1SG:N this+ paper-n-ABL how many-ACC FOC take-IMP-NO

“I haven’t taken any of these sheets of paper.” <L: 150>

b. In the set of paper, NOT (All the members I have taken)

(28a)では、「この紙」の集合から疑問詞と否定呼応項目として機能する焦点化詞との結合形により、どのメンバーも取り上げることが否定されている。

集合のメンバーの全否定は、実は、*ě* が肯定の文脈で用いられる際の全肯定の裏返しである。

(29) Yamar ě xün baatar bol-ž bol-no.

what FOC person:N hero:0 become-ICC may-PRS

“Any person may be a hero.” <U: 36>

(30) Manaj angj-ijn xen-d ě daalg-a-san sajn bijel-üül-ne.

1PL:G class-G who-D/L FOC assign-EP-PF well be fulfilled-CST-PRS

“No matter which person in my class (you) charge with (this), (it) will be done well.” <K&Ts: 277>

(29)や(30)は、「一般的な人」の集合や「私のクラス」の集合の任意のメンバーを取り出しても、例外なく述語で示した事態が適用できることを表す。たとえば、(30)の意味表示は(31)のようになる。

(31) In the set of my class,  $\forall(x)$ : (x is an arbitrary member of the set & x does it well)

(31)を反転させると、(26)の意味表示になるわけである。Horn (2000: 175) は肯定文脈における(31)のような疑問詞と焦点化詞の結合形の機能を、自由選択(Free Choice)と呼んでいる。言い換えるなら、集合のメンバーの全否定は自由選択と対峙する位置にあり、否定演算子が機能の反転の引き金の役割を演ずるのである。

### 3.4 存在否定 (Existence Negation)

これは実体や事態の存在することを完全に否定する表現である。このタイプにはかなりの数の否定呼応項目が含まれる: 疑問詞+č(e.g. *xen č, yuu č*), *neg č, ganc č, neg, neg ix, neg l, yag, yör, yördö, bür, daanč, daxjaad, ogt, ogt l, tag, tun, zügeer, xerxeč, yum, etc.*

存在否定の意味表示は、次のようになる。

(32) THERE EXIST NO A THAT DO/HAVE/BE SOMETHING  
# A = ENTITY or OCCASION

(33) a. *Bi tendees yuu č av-san-güj.*

1SG:N there:ABL what FOC buy-PF-NO

“I didn’t buy anything there.” <A.E.>

b. There exists no thing that I bought there. <ENTITY>

(34) a. *Nadad neg č möngö baj-x-güj.*

1SG:D/L one FOC money:N be-NPS-NO

“I don’t have a penny.” <A.E.>

b. There exists no money that I have. <ENTITY>

(35) a. *Bi ene xot-iyg xezee č üz-ee-güj*

1SG:N this+ city-ACC when FOC see-IMP-NO

“I have never seen this city.” <A.E.>

b. There exists no occasion that I have seen this city. <OCCASION>

(36) a. Nadad yapon-oor yari-x bolomž daanč  
 1SG:D/L Japanese-INS speak-NPS possibility:0 absolutely  
 gar-a-x-güj yum daa.  
 happen-NPS-NO ASR CNF

“I have no chance to speak Japanese, you know.” <MYA: 46>

b. There exists no occasion that I speak Japanese.”

(33a)と(34a)は実体の存在を否定している。焦点化詞 *č* の後接する疑問詞 *yum* “what”と数詞 *neg* “one”のそれぞれの結合形が否定演算子と呼応することで、否定の度合いを強めているのである。(35a)と(36a)は事態の存在の否定である。(33a)、(34a)同様に、疑問詞 *xezee* “when”と焦点化詞 *č* の結合形と副詞 *daanč* が各々否定演算子と呼応している。

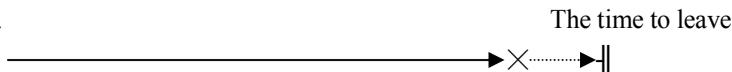
### 3.5 目標達成否定 (Goal Attainment Negation)

このタイプの否定は、期待していた目標に達成していない状態を表し、次のような否定呼応項目が関与する： *araj*, *araj l*, *odoo*, *sanasandaa xürtel*, *xagas*, *xaraaxan*, *l*, *bas l*, etc.

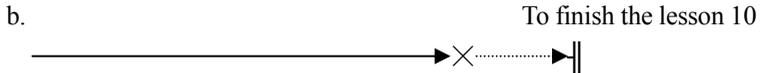
意味表示を(37)のように、図式化することができる。

(37)   
 # X: Stoppage Marker

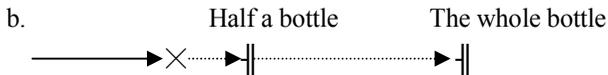
(38) a. Yav-a-x cag araj bol-oo-güj baj-na.  
 leave-EP-NPS time:0 quite become-IMPF-NO be-PRS  
 “The time to leave hasn’t been up yet.” <T: 22>

b. 

- (39) a. Bid aravdugaar xičeel-ee bas l üz-ee-güj baj-na.  
 1PL:N the tenth lesson-REF still only see-IMPV-NO be-PRS  
 “We still haven’t done the lesson 10 yet.” <A.E.>



- (40) a. Bi xagas šil arxi uu-ž čad-a-x-güj.  
 1SG:N a half bottle liquor:0 drink-ICC can-EP-NPS-NO  
 “I can’t drink half a bottle of liquor.” <K&Ts: 267>



(38a)では、「でかける時間」が目標値であるが、発話時においてそれに到達していないことを表している。副詞 araj “quite”が否定演算子と呼応して、未達成の意味を生じさせている。(39a)では bas “still”と l “only, just”の複合形が否定呼応項目として機能している。bas によって目標値までの距離が示され、l によって取り立てられた後で、否定演算子により期待に反しての未達成が表示されるわけである。(40a)では、xagas “a half”が否定演算子と呼応することで、「ボトル半分」という目標値に達していないことを述べている。

### 3.6 部分否定 (Partial Negation)

部分否定は、否定の作用域が文全体にではなく、文の一部分にのみ影響を及ぼすことを示す。この意味で否定呼応項目として働くものには、tjm č, nevt, barag, neg ix などが挙げられる。

部分否定は、最終的な目標には到達していないが、途中までの目標は達成していることを示す事実から、次のような意味表示を立てることができる。



(44) 否定呼応項目の 6 つの意味タイプの系列 (The Strands of the Six Semantic Types of NCI):

- 1) 完全否定の系列 (The Strand of Total Negation): 段階否定 (Scale Negation)、付加否定 (Addition Negation): 等位型 (Coordinative); 下方型 (Downward)、集合メンバー否定 (Set Member Negation): 1 つのメンバーを除くすべてのメンバーの否定 (Negation of All the Members Except One Member); すべてのメンバーの否定 (Negation of All the Members)、存在否定 (Existence Negation): 実体 (Entity); 事態 (Occasion)。
- 2) 非完全否定の系列 (The Strand of Non-total Negation): 目標達成否定 (Goal Attainment Negation)、部分否定 (Partial Negation)。

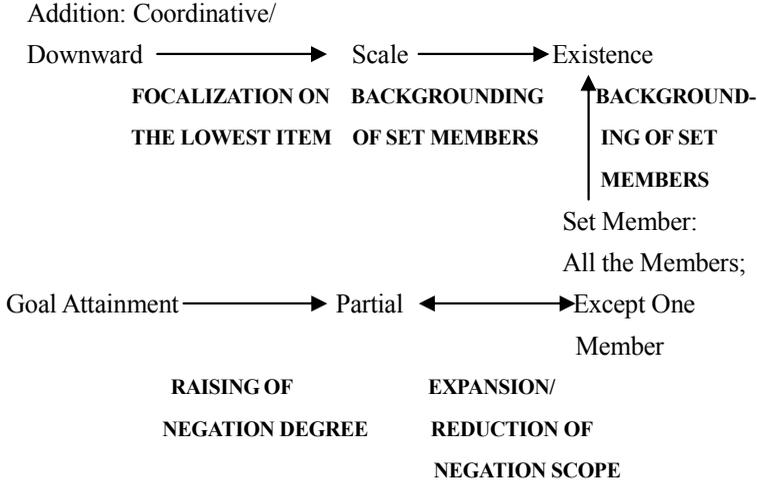
1)は完全否定の系列で 4 つの意味タイプが属している。付加否定は等位型と下方型に下位区分されるが、否定が最も低い項目にまで及ぶと、段階否定と接続できることになる。段階否定は、項目リストの最も低い位置の項目を否定することでそれより上位のすべての項目を否定する。この最低位置の項目の前景化を解除すると、存在否定に接続できる。集合メンバー否定は、個々のメンバーを前景化した上で一つ一つ否定していくものであるが、これらのメンバーが背景に後退すると、存在否定になる。

2)は非完全否定の系列で、2 つの意味タイプから成る。部分否定では否定の度合いが目標達成否定より高いので、この度合いを低くすることで目標達成否定に接続することが可能となる。

完全否定と非完全否定は、集合メンバー否定の下位区分、1 つのメンバーを除くすべてのメンバーの否定を介してつながる。すなわち、1 つのメンバーから複数のメンバーに否定の領域が広がる、あるいは反対に、複数のメンバーからたった 1 つのメンバーに否定の範囲が狭まることで、集合メンバー否定と部分否定が接続するのである。

以上の接続の仕方を通して、6 つの否定の意味タイプは、次のようなネットワークを形成する。

- (45) モンゴル語の否定呼応項目の属する意味タイプのネットワーク  
(The Network of the Semantic Types that Negative Concord Items Belong to in Mongolian): <sup>5</sup>



(45)に見るように、否定呼応項目の 6 つの意味タイプは、個々別々のカテゴリーを形成するのではなく、概念化の操作を介して互いに結び付き、1 つのネットワークを構成しているのである。

### 【グロスの省略記号】

ABL: Ablative (奪格形), ACC: Accusative (対格形), ASR: Assertive (断定形), ASS: Associative (融合形), CNF: Confirmative (確認形), CST: Causative (使役形), D/L: Dative/Locative (与位格形), EP: Epenthetic (挿入要素), FOC: Focalizer (焦点化詞), G: Genitive (属格形), ICC: Imperfective Coordinative (未完了

<sup>5</sup>(45)は、一見、認知意味論における意味のネットワークと類似しているが、コアとなるプロトタイプの意味から周辺の意味への一方向的な拡張を展開する代わりに、各意味タイプが一定の概念操作を介して<存在否定>に収束する傾向にある事実を記述している。これは機能主義の立場での意味タイプ相互の言語事実の観察から得られた結果であって、認知意味論の理論的な枠組みとは無関係である。なぜ、<存在否定>に向かうのかについては、残念ながら現段階では説明できない。今後の検討課題としたい。

等位副動詞形), IMPF: Imperfective (未完了形), INS: Instrumental (具格形), n: hidden n (隠れた n), N: Nominative: (主格形), NO: Negation Operator (否定演算子), NPS: Non-past (非過去形), PCC: Perfective Coordinative (完了等位副動詞形), PF: Perfective (完了形), POS: Possessive (所有形), PRS: Present (現在形), PSV: Passive (受動形), QUT: Quotative (引用標識), REF: Reflexive-Possessive (再帰所有形), TOP: Topic (トピック標識), VLNT: Voluntative (意志形), 0: Zero (ゼロ格形), 1SG: First Singular (第 1 人称単数形), 1PL: First Plural (第 1 人称複数形), 3SG: Third Singular (第 3 人称単数形), 3PROC: Third Personal Possessive Proclitic (第 3 人称所有後接語), +: Attributive (修飾形標示), :: Inflexion (屈折標示).

#### 【出典の省略記号】

A.E.: Attested Example, HA: Hangin (1997), K&Ts: Kullmann and Tserenpil (1996), L: Luvsanzav (1976), MYA: Araj, et al. (eds.) (1990), ÖS: Ödrijn Sonin (Online Mongolian Newspaper), T: 田中 (2005), U: Šarav, et al. (1978), Ünen: Mongolian Newspaper.

#### 【参考文献】

- Araj, Šiniči, Čoj Luvsanzav, S. Dolgor and D. Naranceceg (1990) *Mongol-Yapon yarjaaniy devter*. Ulsiyn Xevlelijn Gazar: Ulaanbaatar.
- Hangin, John G. (1977) *Intermediate Mongolian*. Bloomington: Indiana University. [reprinted] Curzon: Richmond.
- 橋本邦彦 (2004) 「モンゴル語のコピュラ構文の意味の類型」『室蘭工業大学紀要』54 : 91-100.
- Hoeksema, Jack (2000) 'Negative polarity items: Triggering, scope, and c-command'. In: L. R. Horn and Y. Kato (eds.), 115-146.
- Horn, Laurence R. (2000) 'Pick a theory (not just *any* theory): Indiscriminatives and the free-choice indefinite'. In: L. R. Horn and Y. Kato (eds.), 147-192.

- Horn, Laurence R. and Yasuhiko Kato (eds.) (2000) *Negation and polarity: Syntactic and semantic perspectives*. Oxford: Oxford University Press.
- Kullmann, Rita and D. Tserenpil (1996) *Mongolian grammar*. Hong Kong: Jensco Ltd.
- Luvsanzhav, Čoy (ed.) (1976) *Mongol xel surag bičig*. Ulaanbaatar: BNMAU Sajd Nariyn Zövlöljijn Ulsiyn Deed, Tusgaj Dund, Texnik Mergežlijn Bolovsroliyn Xorooniy Xevlel.
- Linebarger, Marcia (1987) 'Negative polarity and grammatical representation'. *Linguistics and Philosophy*. 10: 325-387.
- 沼田善子 (2000)「とりたて」『日本語の文法 2 時・否定と取り立て』154-216. 岩波書店
- Šarav, S., Č. Luvsandende, D. Bazar and Ya. Gončig (eds.) (1978) *Unšix bičig*. Ulaanbaatar: BNMAU Ardiyn Bolovsroliyn Yaamniy Xevlel.
- 田中セツ子 (2005) 『現代モンゴル語口語辞典』 大学書林
- 吉村あき子 (1999) 『否定極性現象』 英宝社

# The semantic classification of the negative concord items in Mongolian

Kunihiko HASHIMOTO

The purpose of this article is to classify semantic types of the negative concord items (henceforth, NCI) in Mongolian (the Khalkha Dialect) and then, to elucidate how the classified types are linked up with one another from the point of view of conceptualization. The NCI, including negative polarity items, is defined as the following: any constituents (e.g. words, phrases, idioms, etc.) that are allowed to appear especially in the negative scope of an expression. For instance, English contains *any, anything, yet, ever, either, at all, lift a finger* and so on. The occurrence of the NCI is licensed by negative operators such as *not, never, no, without, only, rarely, deny, refuse, fail to* in English. The Mongolian language, like English, permits the following various negative concord items in the negative scope set up by the negative operators: *č, l, neg, araj, yör, bür, daanč, ogt, nevt, yag*, etc. They work, across the items, as exponents of the six semantic types: Scale Negation, Addition Negation, Set Member Negation, Existence Negation, Goal Attainment Negation, and Partial Negation. The close consideration will make it clear that the semantic types form a network linking up with one another in terms of several conceptualizing factors.

*Common Subject Division, Section of Linguistic Science  
Muroran Institute of Technology  
27-1 Mizumoto, Muroran, Hokkaido 050-8585, Japan  
E-mail: khasimot@mmm.muroran-it.ac.jp*